

流山市民ふれあいセンター相馬ユートピアの運営(廃止・存続)に対する意見等について

No	意 見 等	市の考え方
1	相馬ユートピアが建設されるに至った経緯についても亡くなられた市議会議長から聞いていますが、今や市の財政の大きな負担となりました。私は早くからこの施設を市民の福祉に役立たないといろいろなところで訴えましたが、行政責任者も積極的でなかったような気がしてなりません。一円も大事に無駄しない井崎市長早く処分してください。 昨年、思井の会館でのタウンミーティングも市長にお願い致しました。利用状況、市の会計から補助金の支出、常識ではこの施設の存続を考えるのはノーマルでないと思います。市長に期待します。	ご意見のとおり、本施設の管理運営経費（年間４千万円）及び施設建設費借入償還費（年間６千５百万円）に対する市の財政負担は非常に厳しい状況にあることから、廃止の方向で進めてまいります。 なお、本施設が廃止されても、姉妹都市である相馬市との友好関係は変わらないものと両市確認しているところです。
2	３回家族で訪れ、夫々２～３泊お世話になりました。沢山の楽しい思い出を作ることができました。食事もお昼のオプションのバーベキューを除いて（ジギスカンは材料も良くなく野外食事場所の清潔感に欠けていました）、大変美味しく心のこもったものでした。 残念なことは、相馬は非常に遠く、自家用車でも片道５時間位かかり往復に疲れ、７０歳になってからは一度も行っておりません。相馬は流山と歴史的な結びつきが強いとのことですが、矢張り県内又は茨城県の近くの海岸に新たなユートピア保養所を設置して頂ければ私共市民も気楽に何回でも出掛けることができますと思います。 別件ですが、クリーンセンターに浴場がありますが隣接の室内プール（一年中オープンの温水プール）が欲しいです。	本施設の管理運営経費（年間４千万円）及び施設建設費借入償還費（年間６千５百万円）に対する市の財政負担は非常に厳しい状況にあることから、廃止の方向で進めてまいります。 なお、市内及び近隣市において民間の温浴施設が多数設置されていることから、現在のところ新たに保養施設等の建設予定はありません。
3	市民の利用が改善されないなら、残念だが、廃止もやむなしと考えます。Ｈ４年頃、小学生の子供２人を連れて家族で１泊したことがある。家族で福島県にいったのはこれが初めてだった。途中、フタバスズキリュウの展示を見たり、翌日松浦湾で潮干狩りもした。施設内にピアノがあり娘が遊びで弾いたりしていたのをのを思い出しますが、現在市民の利用が年１０００人では仕方なし。 あと、土地の半分は相馬市等が所有しており先方に譲渡する方法もあるのでは。又国の利息は６％台で高いのに驚いた。国は低利の借換えを認めるべきだ。以上昔をおもいだし、残念に思う次第です。	ご意見のとおり、本施設の管理運営経費（年間４千万円）及び施設建設費借入償還費（年間６千５百万円）に対する市の財政負担が非常に厳しい状況であり、さらに、流山市民の利用が年々減少していることから、廃止の方向で進めてまいります。 また、姉妹都市である相馬市と施設の処分等を含め協議を行っております。 なお、施設建設費借入金につきましては、その償還手続きについて国と協議中です。
4	流山市民ふれあいセンター相馬ユートピア 担当殿 姉妹都市である相馬の「相馬ユートピア」へは、毎年１～２回非日常的生活を求めて遊びに行きます。毎年楽しみにしている、そんな施設が廃止も視野に入れた検討に入っていると聞きビックリしました。確かに、施設の方々に聞いても、「施設としても色々工夫し、車の便も良くなっているけど、まだまだ遠いせいか流山市民の利用が減っています。」と残念がっていました。 相馬市の周辺の環境整備、現地での色々な経営努力がなされているのが訪れるたびに肌で感じます。しかし、流山市はどんな協力をしているのでしょうか？市レベルでのＰＲは十分なのでしょうか、健康な人はもちろん、障害者等の方々もゆっくり宿泊できる環境作りとＰＲ等、市民の福祉の観点からもやることはまだまだあるのではないのでしょうか。 是非、継続を前提とした検討を進めていただきたいと、切にお願い申し上げます。	継続を前提とした検討をとのご意見ですが、平成17年度に経営診断を行い、平成18年度はこの経営診断（廃止、管理運営経費の削減、利用者ニーズに応えるための設備投資）を踏まえ、本施設の廃止・存続の判断期間としたところです。 しかしながら、本施設の管理運営経費（年間４千万円）及び施設建設費借入償還費（年間６千５百万円）に対する市の財政負担が非常に厳しい状況であり、さらに、流山市民の利用が年々減少していることから、廃止の方向で進めてまいります。 また、ＰＲ不足ではないかとのこと指摘ですが、広報ながれやまには年１０回の掲載及び市ホームページには施設の概要をはじめ姉妹都市交流ツアーなどの周知とともに、公共施設へのパンフレットの常備や各種団体への訪問や文書通知などＰＲに努めているところです。 なお、本施設が廃止されても、姉妹都市である相馬市との友好関係は変わらないものと両市確認しているところです。
5	第２の夕張になってはいけません。 予算が取れなくなった時点で閉鎖・解散すること	ご意見のとおり、本施設の管理運営経費（年間４千万円）及び施設建設費借入償還費（年間６千５百万円）に対する市の財政負担が非常に厳しい状況であり、さらに、流山市民の利用が年々減少していることから、廃止の方向で進めてまいります。
6	平成４年に利用しました。吹きぬけの近代的建物にびっくりしました。でも、温泉ではなく沸かし湯にがっかりしました。当時、高速も途中までで遠さにもびっくりです。何ととっても温泉がないことでもう行く気にはなれません。人は温泉を求めて北海道や東北でも行きます。それは健康のためです。私は今年の３月で退職しました。住民税が２倍になり（退職したので所得税は関係ありません）お金はありませんが時間があります。房総には温泉がたくさんあります。健康と福祉の増進を図る事が目的でしたら全然無意味です。 増々高齢化です。相馬の廃止と共に市の温泉施設のご検討ください。	ご意見のとおり、本施設は温泉ではなく沸かし湯であり、利用者ニーズに応えるための設備投資も財政的に非常に厳しい状況です。また、本施設の管理運営経費（年間４千万円）及び施設建設費借入償還費（年間６千５百万円）に対する市の財政負担が非常に厳しい状況であり、さらに、流山市民の利用が年々減少していることから、廃止の方向で進めてまいります。 なお、市内及び近隣市において民間の温浴施設が多数設置されていることから、現在のところ新たな温泉施設の建設予定はありません。
7	存続すべきである。但し、現状のままでは廃止もやむを得ないということになるから、改革を行い、収支改善努力を５年間行い、再度判断する。 収支検討 別紙 具体的な提案 別紙 ２０年度廃止で解体しても、ここ５年間の市として支出額に大きな差はなく、いろいろ問題も逆にある。	存続すべきであるということで、収支検討及び具体的な検討（別紙）の資料をいただきましたが、平成17年度に経営診断を行い、平成18年度はこの経営診断（廃止、管理運営経費の削減、利用者ニーズに応えるための設備投資）を踏まえ、同様のシュミュレーションを行い本施設の廃止・存続の判断材料としてきました。 また、過去においては経費削減等改善策を講じてきましたが、大幅な売上増には至らず、将来的にも利用者の増加、売上の増額が見込めないことから、平成19年度をもって廃止する方向で進めてまいります。